

新琴似のねきし

明治18年(1885年)、のちに『新琴似の父』とよばれることになる
みさわたけし へいそん
三澤毅が、『兵村』の場所として新琴似をえらびました。そして明治20年
(1887年)に九州から来た士族(武士)たちが、屯田兵として開拓を進め
ました。今の新琴似神社にある新琴似中隊本部のたて物は、新琴似の
ねきしをつたえる大事なものです。

昭和30年(1955年)に札幌市となり、昭和40年(1965年)には人口
1万人をこえ、家やアパート・商店がたちはじめました。そして昭和47年
(1972年)、札幌オリンピックが開かれた年に北区となりました。

そのころの地下鉄は北24条駅が終点でした。地下鉄をのぼしてほしい
とねがった新琴似の人たちは、札幌市におねがいし、昭和53年(1978年)、
地下鉄は麻生までのびました。



平成28年
札幌市撮影



新琴似は昔から、夏祭りや秋祭り、ぼん
おどりなどがさかんです。子どもたちもたく
さん思い出をつくっています。

祭りはオイラも大すきだ！
農村歌舞伎も子どもたちの
思い出づくりに役立ってる
んだらうな！



▲お祭りの様子